

国見町は、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」を進めています。このコーナーでは町や地域が行っている取り組みについて、毎月お伝えしています。

【企画調整課地域振興係 ☎ 585-2967】  
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



## 源頼朝 対 奥州藤原氏の最終決戦場「阿津賀志山防塁（二重堀）」について

今月は、源頼朝と奥州藤原氏の最終決戦「阿津賀志山の戦い」で、頼朝軍を迎え撃つために藤原軍が築いた「阿津賀志山防塁（二重堀）」を掘り下げます。

### 厚樫山防塁とはなにか？

阿津賀志山防塁とは、侵攻してくる敵軍の動きを鈍らせ、侵入を防ぐために作られた防御施設です。阿津賀志山の中腹から阿武隈川まで約3.2キロ（堀の深さ4~5m）にわたって築かれました。

福岡県太宰府市の水城防塁、福岡市の元寇防塁と並んで日本三大防塁の一つであり、別名「二重堀」と呼ばれています。



阿津賀志山防塁ジオラマ（あつかし歴史館展示）



東京ドーム5個分もあったという二重堀

### 防塁を築くに至った背景

100年近く平穏な時を過ごしてきた奥州の人々は、頼朝軍と比べて戦の経験が不足していました。

また、頼朝の命により全国各地から集められた武士は28万ほどと伝えられ、藤原軍に比べて圧倒的な兵力がありました。

藤原泰衡はこれらの戦力的な不利を補うための打開策として、防塁を築くことにしたのです。

### なぜ国見町に防塁が築かれたのか？

1. 泰衡の兄、藤原国衡を総大将として陣を構えた大木戸周辺は、山を背にして頼朝軍の動きを見渡することができるなど、防御に有利な地形だった。
2. 阿津賀志山のふもとは、貝田と宮城県越河との間の地狭部であり、頼朝軍の進行を遮断することが可能な地点だった。
3. 阿津賀志山周辺は、泰衡が最も信頼していた家臣佐藤基治の領地で、防塁構築と軍事両面の協力が得られた。

以上の要因で防塁の場所が選ばれたと考えられますが、結果として頼朝軍の勝利となります。しかし、堀の二重構造は当時の英知を最大限に生かした防御施設として非常に先進的であったと伝えられています。

### 町おこしをむねに…貝田宿屋号めぐり ～国見町郷土史研究会 主催～

11月14日、旧奥州街道貝田宿をめぐり催しが行われました。80人を超える多くの方が参加し、江戸時代から引き継がれてきた貝田宿の屋号を散策しました。

特に、国登録有形文化財の登録を目指している松田家住宅では、子どもたちによる日本舞踊が行われ、多くの観客の感動を呼びました。



地域おこし協力隊  
逢坂 巴菜子

## 地域おこし協力隊活動日記 vol.15

子どもたちと共に挑戦し、成長していきたい



こんにちは、地域おこし協力隊の逢坂巴菜子です。国見に移住してから、早くも4か月が経ちました。半田山の紅葉も色づき、季節の変わり目をひしひしと感じています。

現在、私は「放課後塾ハル」の中学部のスタッフを務めさせていただいています。10月から中学3年生に加え中学1・2年生の授業が始まり、ハルでは毎日生徒たちのにぎやかな声が響いています。中学3年生は11月になり本格的に受験勉強がスタートし、生徒たちにとって初めての「受験」という大きなチャレンジに向かっていきます。

私は「放課後塾ハル」という場所を通じて、生徒たちが自分自身の可能性を信じ抜く人になってほしいと考えています。生徒たちが勉強を通して成功体験を積むことで自信を持ち、どんなチャレンジにも臆することない大人になってほしいと願っています。そのためにはまず、自分たちがたくさんのごことに挑戦し続け、背中を見せることが大切だと考えています。私自身、まだまだ至らない点がありますが、生徒たちと真剣に向き合い共に成長していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



企画調整課総合政策係 585-2217

せと けんすけ

まつだ るあ

たかはし しゅうと

やしま みゆ

くにみ幼稚園（年中組・フクロウ）

おさなまオタタ